

日本海南西部鳥取県沿岸およびその周辺に生息するカニ類

武田正倫¹・古田晋平²・宮永貴幸²・田村昭夫³・和田年史⁴

Crabs from the southwestern Sea of Japan along Tottori Prefecture and its vicinity, Japan

Masatsune TAKEDA¹, Shinpei FURUTA², Takayuki MIYANAGA², Akio TAMURA³ and Toshifumi WADA⁴

要旨: 鳥取県立とっとり賀露かっこ館の建設に関連して集められた標本と鳥取県立博物館の学芸員らにより収集された標本に基づき、日本海南西部鳥取県沿岸に生息するカニ類のリストを作成し、隣接する兵庫県および島根県沿岸に生息するカニ類標本もリストに加えた。その結果、鳥取県沿岸および兵庫県または島根県沿岸で記録された168種と、兵庫県沿岸のみと島根県沿岸のみで記録されたそれぞれ7種と3種を合わせて、合計178種のほとんどについて写真とともに、産地・個体数・雌雄・採集日・標本管理者のデータを記した。日本海沿岸の府県の中でカニ類の記録がもっとも少なかった鳥取県沿岸ではあるが、小型種にまで及ぶ採集努力の結果、既記録の2倍近くに増加した。磯から浅海に生息する種はその多くがいわゆる暖海系であるが、日本および近海に固有の種のほか、明らかに寒海系の種も含まれている。日本海から初めて記録されるのは29種に達し、その中にはタカアシガニのように生物地理学的に、あるいはヒメメナガエンコウガニのように分類学的に興味ある種が含まれている。日本海から記録されたカニ類は、既知の報告による266種(シノニムや無効名を除くと260種)に、今回新たに見つかった29種を加えて合計295種となる。鳥取県沿岸に生息するカニ類は、既記録93種(正確には87種)のうち、今回の調査で採集されなかった15種に、本報告での168種を加えて183種となる。これらの結果から、日本海南西部鳥取県沿岸およびその周辺に生息するカニ類相の特徴についても議論した。

キーワード: カニ類, 鳥取県, 日本海, 生物地理, 甲殻類相

Abstract: A total of 178 species of littoral and offshore crabs of Tottori, Hyogo and Shimane Prefectures in the southwestern Sea of Japan are listed mainly based on the collections of the Tottori Karo Crab Aquarium and the Tottori Prefectural Museum. Color photographs, exact localities, collected date and number of the specimens are given for most of the species. The species restricted to Hyogo and Shimane Prefectures are only 7 and 3 of 178 species, respectively, and the remaining 168 are those from the sea off Tottori Prefecture. The crab fauna of Tottori Prefecture was quite poorly known in comparison with the other prefectures along the coast of the Sea of Japan, but the present study revealed that the sea off Tottori Prefecture is rich in the crab fauna mainly with the species widely distributed in the Indo-West Pacific waters and the species endemic to Northwest Pacific waters including Japan, and partly with some northern North Pacific species. Twenty-nine of 178 species are recorded for the first time from the Sea of Japan, including some biogeographically or taxonomically interesting species such as *Macrocheira kaempferi* (Temminck) of the Inachidae and *Ommatocarcinus fibriophthalmus* Yokoya of the Goneplacidae. The crabs known from the Sea of Japan are 295 species including the 29 species which were recorded in this study. The crabs known from Tottori Prefecture are 183 species including 15 species not examined during the present study.

Keywords: crabs, Tottori Prefecture, Sea of Japan, biogeography, carcinological fauna

¹ 帝京平成大学現代ライフ学部 〒170-8445 東京都豊島区東池袋 2-51-4

Faculty of Modern Life, Teikyo Heisei University, Higashi-Ikebukuro 2-51-4, Toshima-ku, Tokyo, 170-8445 Japan

E-mail: takeda-m@thu.ac.jp

² 鳥取県農林水産部 Department of Agriculture, Forestry and Fisheries, Tottori Prefecture

³ 日本海甲殻類研究会 Japan Sea Crustacean Research Society

⁴ 鳥取県立博物館付属『山陰海岸学習館』Tottori Prefectural Museum

[受領 Received 6 December 2010 / 受理 Accepted 24 January 2011]

はじめに

日本海産のカニ類（短尾下目：後述）は、既存の文献に基づいて本尾（2003）により詳細にまとめられ、266種が数えあげられている。出現種の記録を各県単位で一覧表にただけでなく、漁獲対象種、分布上興味ある種、分布の再確認を要する種などについて論議がなされている。

鳥取県産のカニについては、既記録の種に加えて、1996年に県立博物館で開催された「山陰海岸のカニ～カニと一緒に記念写真～」関連の未発表資料（田村昭夫編）に記録されている日本海未記録種も加えられている。しかし、水産研究所や臨海実験所がある新潟県などの記録と比較して、鳥取県からの記録は少なく（93種）、日本海南西部のカニ類相の構成を考察するのに情報不足である。

鳥取県立とっとり賀露かっこ館（鳥取市）の建設に関連して集められた標本と鳥取県立博物館の学芸員らにより収集された標本を加えると、日本海の外県産の記録に匹敵する種数になることが判明した。これらを記録することは、日本海南西部のカニ類相の詳細を明らかにするとともに、今後の経時的変化の解明に寄与するものと考えられる。また、図鑑的要素を加えることによって漁業者、学生、主婦などに更なる興味をもていただくように配慮し、今後も標本収集に協力していただく基礎能力を養う資料として欲しいとの願いも込められている。

日本産カニ類に関しては、酒井（1976）によるモノグラフがある。その後追加された種も多く、また、近年、カニ類についての系統分類学が各国で積極的に進められ、その集大成的な著作が出版されたために、学名や属科の変更が多い（Ng *et al.* 2008）。基本的なグルーピングに大きな変更があるわけではないが、日本で出版されている図鑑類との大きな違いは、科が細分されていることである。従来の亜科を科に昇格させたというケースが多いが、広義のオウギガニ科やイワガニ科、スナガニ科、クモガニ科などで細分が顕著である。考え方の違いという面はあるが、やはりカニ類分類の最先端で行われている研究を無視するのは問題があり、本報告では最新の分類体系を採用している。

世界各地の標本を直接比較することが容易になり、その結果、広域分布種が比較的少なくなり、新種の記載や学名の改変が多くなった。研究が進めば学名の改変はやむを得ないことであるが、分類以外の研究者にとっては、厄介なことである。顕著な例はカイカムリ科（McLay 1993）、コブシガニ科（Galil 2003-2006）、

エンコウガニ科（Castro 2007）などである。また、カクレガニ科からオサガニ科へなど別の科への移動も少なからずあるが、和名の変更はしていない。

種の記載と標本データにおいて、科は基本的には三宅（1983）の図鑑に従って配列してある。また、各科内における種の配列は学名の属のアルファベット順に、さらに、同属内では種小名のアルファベット順に並べてある。

鳥取県沿岸およびその周辺のカニ類相の特徴

すでに述べたように本尾（2003）の既記録種のリストには鳥取県産として93種が挙げられている（シノニムや無効名を除くと87種）。比較的調査が行き届いている新潟県では140種（正確には139種）、石川県では131種が記録されている。基本的には日本海の動物相は対馬暖流の影響を受けて分布する暖海系の種と寒海系の少数種、相当数の日本およびいわゆる極東固有種からなり、日本海南西部から北に行くにしたがって種数が減少する。底生性であるカニ類においても分布傾向は同様で、日本海南西部から日本列島を北上するにつれて種数が減少する。単純に県単位で種数を比較することに意味はないが、それにしても鳥取県産カニ類の既知種数が少なすぎたことは明らかである。

今回、隣接する兵庫県および島根県沿岸に生息するカニ類標本を含めて、日本海南西部の鳥取県沿岸に生息するカニ類のリストを作成した。その結果、鳥取県沿岸および兵庫県または島根県沿岸で記録されたのが168種で、兵庫県沿岸のみと島根県沿岸のみで記録されたのがそれぞれ7種と3種であった。今回のリスト作成で合計178種（うち1種はズワイガニとベニズワイガニの雑種）が記録され、既知種数の2倍近くになった。そのうち29種が日本海新記録で、次章に記す各種の説明にその旨記してある。それらの多くは本州太平洋岸から九州沿岸にかけて記録されているか、あるいはさらに暖海に広く分布している種で、対馬暖流の影響のもとで日本海南西部へ分布を広げていると考えられる。近年の温暖化によって暖流の影響が強くなったことによるのかどうかは定かではなく、経時的な調査が望まれる。今回の種数の増加はむしろ小型種も積極的に採集した努力の結果である可能性が高い。しかし、網にかかれれば見落とすはずのないタカアシガニが日本海で初めて採集されたように、種数が増えた原因は採集努力だけではなく、明らかに寒海系の種はズワイガニ、ベニズワイガニ、ケガニ、ヒキガニ、ケセンガニなどがよく知られた種として挙

げられる。

本尾 (2003) のリストで鳥取県産とされている 93 種の中で、今回の調査では下記の 15 種が得られなかった。したがって、日本海南西部鳥取県沿岸およびその周辺に生息するカニ類としては、本論文の 178 種に 15 種を加えて、合計で 193 種という結果になる。

アサヒガニ科：ビワガニ *Lyreidus tridentatus* De Haan, 1841

アサヒガニ *Ranina ranina* (Linnaeus, 1758)

カラッパ科：ソデカラッパ *Calappa hepatica* (Linnaeus, 1758)

キンセンガニ科：アミメキンセンガニ *Matuta planipes* Fabricius, 1798

コブシガニ科：トゲナガジュウイチコブシ *Arcania erinaceus* (Fabricius, 1798)

ナナトゲコブシ *Arcania heptacantha* (De Haan, 1861)

エンコウガニ科：アシナガヒメエンコウガニ *Homoioiplax haswelli* Rathbun, 1914

オウギガニ科：アワツブガニ *Gaillardiellus rueppelli* (Krauss, 1843)

ゴイシガニ *Kraussia integra* (De Haan, 1837)

ケブカガニ科：メクラガニ *Typhlocarcinus villosus* Stimpson, 1858

イワガニ科：オキナガレガニ *Planes major* (MacLeay, 1838)

ベンケイガニ科：ヒメベンケイガニ *Nanosesarma gordonii* (Shen, 1935)

カクレガニ科：ラスバンマメガニ *Pinnixa rathbuni* Sakai, 1934

マルピンノ *Pinnotheres cyclinus* Shen, 1932

カギヅメピンノ *Pinnotheres pholadis* De Haan, 1835

本報文では、上記の 15 種に関して個々の種の説明をしていない。それらの多くは浅海の泥底に生息することから、漁船の漁獲物の中から見いだされる可能性が高い。大部分の種は日本および近海の固有種かインド西太平洋海域に広く分布する暖海系種である。流れ藻などについて漂流するオキナガレガニや二枚貝類の外殻腔内に生息するピンノ類などは積極的な採集努力にかかっている。

鳥取県沿岸およびその周辺に生息するカニ類リスト

次の「種の記載」中で、各種名につけてある番号は付表の番号および写真の番号と一致させて容易に検索できるようにしてある。博物館所蔵の標本の多くは展示用であるが、一部は研究に利用することも可能である。採集データおよび標本の所在（管理者）は付表に記録してある。

種の記載

節足動物門 ARTHROPODA

甲殻上綱 Superclass CRUSTACEA

軟甲綱 Class MALACOSTRACA

十脚目 Order DECAPODA

抱卵垂目 Suborder PLECYEMATA

短尾下目 Infraorder BRACHYURA

I. カイカムリ科 DROMIIDAE

1. ヒラコウカムリ *Conchoecetes artificiosus* (Fabricius, 1798)

甲幅 3 cm。甲面、はさみ脚、歩脚ともビロード状の短毛で覆われている。甲面が平たい（和名の由来）。歩脚 2 対は長い、第 3 対はやや短く、指節が大きく湾曲して鎌形。第 4 対は短くて、背中側に位置している。海底では二枚貝の半片を背負っている。

分布 — 相模湾以南、南アフリカまでインド西太平洋海域に広く分布している。日本海では秋田県以南。鳥取県沿岸新記録。生息水深は 30-100 m。

2. ワタゲカムリ *Dromia wilsoni* (Fulton & Grant, 1902)

(図 1-2)

甲幅 3 cm ほど。甲は横長の楕円形で、甲、はさみ脚、歩脚ともに短い軟毛で密に包まれている。額は 3 歯からなるが、中央歯は小さい。甲の前側縁には 3 歯あり、第 1 歯はやや下方に位置する。McLay (1993) により *Petalomera* 属から *Dromia* 属に移されたが、幼生も調べた McLay (2001) は *Dromia* 属とも異なることを示唆している。したがって、学名は暫定的である。

分布 — 北海道を除く日本両沿岸、ハワイ、マーケサス諸島、オーストラリア、南アフリカまで広く分布している。生息水深は 20-250 m。

3. カイカムリ *Lauridromia dehaani* (Rathbun, 1923)

(図 1-3)

甲長、甲幅とも 4 cm ほどで、甲面が半球形に盛り上がっている。甲面、はさみ脚、歩脚ともフェルト状の短毛で覆われているが、甲面にはやや長い毛の束や横帯がある。額には 3 歯あるが、中央歯は小さくて下方に位置する。甲の前側縁には 4 歯が並び、第 4 歯は鰓溝の直後にある。はさみ脚の指部は無毛で、赤紫色。分布 — 北海道南部から南の日本海沿岸、東京湾以南の太平洋岸、東南アジアを経てインド洋まで広く分布する。水深 60-250 m の小石まじりの海底に生息するが、水深 600 m を超える深さからの記録もある。

4. ニホンカムリ *Paradromia japonica* (Henderson, 1888)
(図 1-4)

甲長、甲幅はほぼ等長で、2 cm ほど。甲面は半球形に盛り上がり、はさみ脚および歩脚と同様に、ごく短い毛で覆われている。額歯は3つあり、中央歯は小さいが、側歯が大きいので、甲全体が丸みのある五角形に見える。甲の前側縁には3つの鈍歯があり、肝域にも1つの突起がある。

分布 — 岩手県以南の太平洋岸、青森県以南の日本海沿岸、韓国、中国北部の水深 30-50 m。鳥取県沿岸新記録。

5. ヒラアシカムリ *Petalomera granulata* Stimpson, 1858
(図 1-5)

甲はわずかに縦長で、甲長 3.5 cm ほど。甲面は細かい顆粒で密に覆われ、線状の溝で甲域に分けられている。甲の前側縁には大小不規則な突起が並んでいる。はさみ脚の長節の内面が滑らかで、縁は板状に薄い(和名の由来)。

分布 — 日本固有種で、東京湾から南の太平洋岸、青森県以南の日本海。水深 50-150 m に生息する。

6. ハリダシカイカムリ *Takedromia cristatipes* (Sakai, 1969)

甲幅 2 cm、甲長 1 cm ほど。甲面は盛り上がり、甲域は不明瞭。額は板状で、三角形に突出し、側方は眼窩上縁と癒合している。甲の前側縁は板状で、左右はほぼ平行である。甲の前側縁は数個の小歯に刻まれ、前端は下方を向いて口部の前側角に連なる。はさみ脚は強力で、長節、腕節、掌部に鋭い突起が数本ある。分布 — 基産地は土佐湾で、その後紀伊半島沿岸からも記録されている。また、ニューカレドニア (McLay 1993)、グアムとフィリピン (McLay 2001) からも記録されている。生息水深は 48-430 m。兵庫県産。日本海新記録。

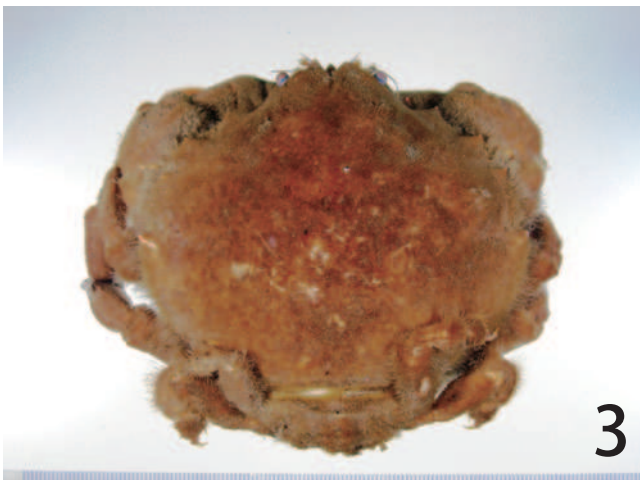


図 1 (カイカムリ科) . 2: ワタゲカムリ *Dromia wilsoni* (Fulton & Grant, 1902) . 3: カイカムリ *Lauridromia dehaani* (Rathbun, 1923) . 4: ニホンカムリ *Paradromia japonica* (Henderson, 1888) . 5: ヒラアシカムリ *Petalomera granulata* Stimpson, 1858.

II. マメヘイケガニ科 CYCLODORIPPIDAE

7. マメヘイケガニ *Tymolus japonicus* Stimpson, 1858

(図 2-7)

甲幅 1 cm ほどで、甲の輪郭は円形に近い。甲面は全体に弱く盛り上がり、胃域に 4 個の顆粒が横に並んでいる。額部に 4 歯、甲の前側縁に 3 歯ある。甲は小さいが、前 2 対の歩脚は円筒形で著しく細長い。後 2 対の脚は細くて短く、指節が鎌形。

分布 — 日本固有種で、北海道南部から九州までの全沿岸。生息水深は 45-340 m。鳥取県沿岸新記録。

III. ホモラ科 HOMOLIDAE

8. ヒラホモラ *Homolomannia sibogae* Ihle, 1913

(図 3-8)

甲長約 3 cm。甲の輪郭はやや縦長の四角形で、全体にピロード状の短毛で密に覆われている。甲域は不明瞭で、甲面は盛り上がらない。眼窩外歯は鋭く尖り、斜め前方を向く。甲の側縁は眼窩外歯の後方が浅くへこむが、その後方、鰓域は弱く膨らむ。歩脚は長く、平たい。最後の脚は前節の基部と指節によりはさみを形成する。

分布 — 相模湾から土佐湾までのほか、フィリピンやインドネシアから知られている。日本海新記録。

9. トゲミズヒキガニ *Latreilopsis bispinosa* Henderson, 1888

(図 3-9)

甲は縦長の四角形で、長さ 2 cm ほど。甲域は明瞭で、胃域に 3 個、心域に 2 個の突起がある。眼上棘は斜め上方に突出する。眼柄は眼上棘よりわずかに短い。3 対の歩脚は円筒状で細長く、長節前縁に小棘が列生し

ている。第 4 対は短く、前節後縁の末端にある数本の棘と鉤爪状の指節が向き合う。

分布 — 相模湾以南、インド洋西部まで広く分布し、水深 95-280 m に生息する。日本海での記録は鳥取県沖のみ。

IV. ミズヒキガニ科 LATREILLIDAE

10. ミズヒキガニ *Eplumula phalangium* (De Haan, 1839)

(図 4-10)

甲長 9 mm ほどで、甲は縦長の洋梨形。眼上棘は長い、眼柄はさらに長い。3 対の歩脚は管状で、著しく細長い。第 4 脚は短く、先端の指節が前節末端の突起ではさみを形成する。生時はこのはさみでヤギ類などをはさんでいる。歩脚は濃赤褐色で、サナダミズヒキガニのような縞模様をもつ個体はいない。

分布 — 日本近海固有の種で、本州北部から九州まで、日本海側および太平洋側沿岸に分布するほか、韓国済州島からも記録されている。採集記録は水深 50-300 m であるが、一般にサナダミズヒキガニよりも浅海に生



図 2 (マメヘイケガニ科) .7: マメヘイケガニ *Tymolus japonicus* Stimpson, 1858.



図 3 (ホモラ科) .8: ヒラホモラ *Homolomannia sibogae* Ihle, 1913. 9: トゲミズヒキガニ *Latreilopsis bispinosa* Henderson, 1888.

息する。鳥取県沿岸新記録。

11. サナダミズヒキガニ *Latreillia valida* De Haan, 1839
(図 4-11)

甲は縦長の洋梨形で、甲長 1.5 cm ほど。眼上棘は眼柄の半分程度の長さである。長い 3 対の歩脚は紅白の縞模様になっている。第 4 脚は前 3 対の 2/3 ほどの長さで、前節に羽状毛の縁取りがある。

分布 — 東京湾以南の太平洋側、秋田県以南の日本海側、インド洋東部まで分布する。生息水深は 50-300 m。

V. アサヒガニ科 RANINIDAE

12. コスモガニ *Cosmonotus grayii* Adams & White, 1848

甲長 1 cm ほどの小型種で、やや縦長。甲の形態は特徴的で、背面の正中線を境として屋根のように折れ曲がった状態である。甲面には細かい顆粒が散在する。背面から見ると、額は V 字形に切れ込んでいる。甲の前側縁には眼窩近くに 1 本の棘がある。眼柄が長い。はさみは掌部が高く平たい。不動指が短い、可動指



図 4 (ミズヒキガニ科). 10: ミズヒキガニ *Eplumula phalangium* (De Haan, 1839). 11: サナダミズヒキガニ *Latreillia valida* De Haan, 1839.

は大きく湾曲している。歩脚は短く、前 3 対では指節が長い刃状、第 4 対では卵形である。

分布 — 相模湾以南、インド西太平洋海域の浅海砂泥底に生息する。日本海では鳥根県沖から記録されている。鳥取県沿岸新記録。

VI. ヘイケガニ科 DORIPPIDAE

13. キメンガニ *Dorippe sinica* Chen, 1980

(図 5-13)

甲長 3 cm ほどで、甲は後方が広く、縦長の四角形。各甲域は明瞭で盛り上がり、数個のいぼ状の顆粒がある。見た目が恐い鬼の面のようなのでこの和名がある。右側のはさみ脚が大きい。2 対の歩脚は長い。後 2 対の短い脚のかぎ爪で貝殻などを背負う習性はヘイケガニ科のカニに共通である。

分布 — 本州北部から南、日本海側および太平洋側の全沿岸、東シナ海、南シナ海に分布する。水深 15-70 m の砂泥底に生息する。

14. ヘイケガニ *Heikeopsis japonica* (Von Siebold, 1824)

(図 5-14)

甲長 2 cm ほどで、甲幅もほぼ同じ。甲面は滑らかで、甲域が明瞭に分けられている。胃域、心域、腸域、鰓域がやや盛り上がり、目尻のつり上がった目のように見えるのは中鰓域で、全体として悔しそうな人の顔に見える。2 対の歩脚は著しく長く、先端の 2 節（前節と指節）は毛で縁取られている。後方の 2 対は短くて背中側に位置し、先端はかぎ爪状。砂泥底に生息し、この 2 対で二枚貝の殻やカシパン（ウニ類）などを背負って身を隠している。瀬戸内海に多産することから、源平の戦いに敗れた平家の怨念が乗り移ったという伝説のカニである。

分布 — 駿河湾から土佐湾にかけて分布し、瀬戸内海に多産する。日本海では石川県以南。その他、韓国や中国北部にも分布している。

15. サメハダヘイケガニ *Paradorippe granulata*

(De Haan, 1839)

(図 5-15)

甲はやや縦長の印象を受けるが、側縁が後方に広がるため、甲長、甲幅ともほぼ同じで、2.5 cm ほど。甲域は線状の溝で明瞭に分けられ、怒った、あるいは悔しそうな人の顔を思わせる。甲面、はさみ脚、歩脚とも細かい顆粒で密に覆われている。ザラザラした手触りが鮫肌という和名の由来である。

分布 — 北海道から九州までの全沿岸、韓国、中国北

部。生息水深は 15-150 m。

VII. マルミヘイケガニ科 ETHUSIDAE

16. イズヘイケガニ *Ethusa izuensis* Sakai, 1937

(図 6-16)

甲長 1 cm ほどの小型種で、甲、はさみ脚、歩脚と



図 5 (ヘイケガニ科) . 13: キメンガニ *Dorippe sinica* Chen, 1980. 14: ヘイケガニ *Heikeopsis japonica* (Von Siebold, 1824). 15: サメハダヘイケガニ *Paradorippe granulata* (De Haan, 1839).

も細毛でおおわれている。鰓域の後方がやや膨らんでいるが、全体として細長い印象を受ける。甲域は明瞭で、それぞれに顆粒がある。額の4歯は先端が鋭く尖り、中央の深いV字形の切れ込みで2歯ずつに隔てられている。眼窩外歯は額部からV字形の切れ込みで隔てられ、前方を向いて鋭く尖っている。その先端は額歯とほぼ同じ位置に並ぶ。

分布 — 相模湾と東シナ海の浅海から記録されている。日本海新記録。

17. カクヘイケガニ *Ethusa quadrata* Sakai, 1937

(図 6-17)

甲長約 1 cm の小型種。甲は縦長の四角形で、三角形の眼窩外歯は斜め外を向いている。額縁はV字形の切れ込みによって4歯に刻まれ、それらの先端は一直線である。雄のはさみ脚は右側が大きく、掌部が強く膨らんでいる。

分布 — 日本近海固有種で、相模湾から東シナ海まで



図 6 (マルミヘイケガニ科) . 16: イズヘイケガニ *Ethusa izuensis* Sakai, 1937. 17: カクヘイケガニ *Ethusa quadrata* Sakai, 1937.

の水深 35-195 m に生息する。日本海新記録。

VIII. カラッパ科 CALAPPIDAE

18. マルソデカラッパ *Calappa calappa* (Linnaeus, 1758)

甲幅 10 cm。甲は横長の饅頭形で、前後左右に強く湾曲している。甲面は滑らかで、後半部に長短の横しわがたくさんある。甲縁の後半は完縁で、横に大きく張り出している。サンゴ礁では甲面全体に紫紅斑がある個体も見られる。

分布 — 相模湾以南、インド西太平洋海域に広く分布する。サンゴ礁海域の水深 5-50 m に多い。日本海新記録。

19. トラフカラッパ *Calappa lophos* (Herbst, 1785)

(図 7-19)

甲幅 12 cm ほど。日本産カラッパ類 15 種のうち、もっとも普通に見られる。甲の側縁後部が翼状に発達し、4 歯に切れ込まれている。この部分とはさみ脚に紫褐色の虎斑模様がある。甲の後縁の歯は鋭くない。幼体には甲面に細い縦縞があり、また、各鰓域の前後に離れて位置する丸紋がある。

分布 — 東京湾以南、インド西太平洋の全海域、水深 30-70 m に広く分布する。日本海では新潟県以南。

20. メガネカラッパ *Calappa philargius* (Linnaeus, 1758)

(図 7-20)

甲幅 8 cm ほど。眼窩を取り巻く紫褐色の斑紋が特徴。同じ色の大きな丸紋がはさみ脚の腕節と掌部外面にある。甲の横への張り出しは弱いが、深く 4 歯に刻まれている。また、甲の後縁には鋭い大きな 7 歯が等間隔に並んでいる。

分布 — 東京湾以南、インド西太平洋海域に広く分布する。生息水深は 30-100 m。日本海では新潟県以南。

21. コツノキンセンモドキ *Mursia curtispina* Miers, 1886

甲幅 6 cm ほど。甲の輪郭は横長の楕円形で、甲面は前後に強く湾曲している。甲の側棘は短く、甲幅の 1/4 ほど。はさみ脚は強力で、掌部外面にある三角形の 3 歯のうち、中央歯が最大である。雄の第 2 腹肢は末端近くで基部に向かって丸く曲がっている。

分布 — 相模湾以南、インド西太平洋海域の浅海に広く分布する。日本海では新潟県以南。鳥取県沿岸新記録。

22. オオキンセンモドキ *Mursia microspina*

Davie & Short, 1989

甲幅 8 cm を超える大型種。甲の輪郭は横長の楕円

形で、前後に強く湾曲し、前側縁が強く張り出している。甲面やはさみ脚は尖った大小の顆粒で覆われている。甲の側棘は細く短く、甲幅の 10 分の 1 程度。はさみ脚は強力で、掌部外面の 3 個の突起はごく小さい。雄の第 2 腹肢は末端近くで基部に向かって丸く大きく曲がり、先端が外方に向かって反転している。



図 7 (カラッパ科). 19: トラフカラッパ *Calappa lophos* (Herbst, 1785). 20: メガネカラッパ *Calappa philargius* (Linnaeus, 1758). 23: ミツハキンセンモドキ *Mursia trispinosa* Parisi, 1914.

分布 — 三河湾から土佐湾, オーストラリア, ニューカレドニアの水深200-420 m。日本海では鳥取県沖のみ。

23. ミツハキンセンモドキ *Mursia trispinosa* Parisi, 1914
(図 7-23)

甲幅 5 cm ほど。甲の輪郭は横長の楕円形で, 甲面は前後に強く湾曲している。甲の側棘は甲幅の 1/4 ほどの長さで, 中央部から先がやや前方を向く。甲の前側縁に沿って7個内外の白い鈍頭の顆粒が並んでいる。その他, 甲面に額部から後方に放射状に広がる7条の白色の顆粒列がある。はさみ脚は強大で, 長節末端に細長い棘状突起がある。掌部外面には等間隔に三角形の3歯が並んでいるが, 腕節に近い方から可動指に近い方へ順に大きくなる。

分布 — 相模湾から土佐湾。日本海では秋田県以南。インド洋中部。水深 60-275 m。鳥取県沿岸新記録。

IX. キンセンガニ科 MATUTIDAE

24. キンセンガニ *Matuta victor* (Fabricius, 1781)
(図 8-24)

甲幅 3.5 cm。甲はわずかに横長であるが, ほぼ円形で, 甲面は平たい。歩脚はすべて扁平で, 形が異なる。砂地にすみ, 巧みに泳ぐほか, 素早く砂に潜る。口部の外側に2列ある顆粒列を, はさみ脚の長節にあるやすり状構造でこすって発音する。

分布 — 東京湾以南, 新潟県以南。インド西太平洋海域に広く分布する。砂浜の潮下帯から水深 15 m くらいまでに生息する。

X. コブシガニ科 LEUCOSIIDAE

25. ヒメトゲコブシ *Arcania globata* Stimpson, 1858
(図 9-25)

甲長 1 cm ほどの小型種。甲の輪郭はほぼ円形に近く, 背面は強く盛り上がり, 長短の棘で密に覆われている。甲縁にはやや長い棘が周縁に左右5本ずつ並んでいる。額は中央の幅広い溝で2歯に分かれており, それぞれ先端が鋭く尖っている。はさみ脚の長節は平たい小顆粒で覆われ, 後縁には数本の棘が並んでいる。

分布 — 相模湾から九州, 韓国, 中国沿岸の浅海に生息する。日本海では秋田県以南。鳥取県沿岸新記録。

26. ジュウイチトゲコブシ *Arcania undecimspinosa*
De Haan, 1841
(図 9-26)

甲長 2 cm ほど。甲はやや縦長で, 半球形。甲面は細かい顆粒で覆われ, ザラザラしている。甲の周縁に



図 8 (キンセンガニ科) .24: キンセンガニ *Matuta victor* (Fabricius, 1781)

左右5本ずつ, 後縁に1本, 合計11本の突起がある(和名の由来)。はさみ脚の指部は細長い。

分布 — 本州北部から太平洋岸, 日本海沿岸を経て, 東南アジア, インド洋東部まで, 浅海の砂泥底, 貝殻質の海底に生息する。

27. ウスヘリコブシ *Cryptocnemus obolus* Ortmann, 1892
(図 9-27)

甲長, 甲幅とも 6 mm ほどの小型種。甲の周縁は幅広い薄板状で, やや背側に反り返っている。甲面の中央部は滑らかで, 一様に弱く盛り上がっている。額は中央で深く刻まれ, 先端に鋭い突起がある。甲縁の前側縁は肝域部でやや突出している。はさみ脚は比較的大きく, 各節の縁が板状。歩脚は短く, 甲縁の下に置まれる。

分布 — 相模湾以南, フィリピン, インドネシア海域の浅海砂泥底に生息する。日本海新記録。

28. テナガエバリア *Ebalia longimana* Ortmann, 1892
(図 9-28)

甲長, 甲幅ともに 5 mm ほどの小型種で, 甲面が半球形に盛り上がっている。甲面は滑らかに見えるが, 細かい顆粒で密に覆われている。胃域と心域がやや隆起し, 甲の後縁が鋭い突起として斜め後方に突出している。雌雄ともはさみ脚が長く, とくに指部が掌部の長さに近い。

分布 — 東京湾および富山湾以南, 東シナ海までの水深 30-300 m に少なくないが, 海外ではオーストラリア, クイーンズランド州のモレトン湾 (Campbell 1971) から記録されているのみである。鳥取県沿岸新記録。

29. ヤマトエバリア *Ebalia tuberculosa*

(A. Milne Edwards, 1873)

(図 9-29)

甲長、甲幅ともに 6 mm ほどの小型種で、甲面が半球形に盛り上がっている。甲面は小顆粒で密に覆われ、甲の周辺部では顆粒がやや鋭い。胃域、心域、鰓域に鈍頭の突起があるが、その大きさには変異がある。

分布 — 日本固有種。津軽海峡から九州までの全沿岸、水深 70-400 m に生息する。鳥取県沿岸新記録。

30. ヨツメコブシ *Euclosia unidentata* (De Haan, 1841)

(図 9-30)

甲幅 3.5 cm で、甲長はやや短い。甲は半球形で、甲面は滑らかで光沢がある。額部がやや突出し、額縁の中央に小歯がある（学名の由来）。胃域に左右 2 個ずつの紫紅色の丸紋がある（和名の由来）。

分布 — 東京湾以南、京都府沿岸以南、東南アジア海域を経てインド沿岸まで。生息水深は 30-135 m。鳥取県沿岸新記録。

31. ツノナガコブシ *Leucosia anatum* (Herbst, 1783)

(図 9-31)

甲長 2.5 cm ほどで、甲はやや横長で半球形。甲面は滑らかで光沢がある。色彩変異があるが、胃域と鰓域の境に 2 対の白斑、心域と鰓域の境に白色の縦線がある。額部は突出しているが、他種との比較上のことで、和名が示すイメージほどではない。

分布 — 秋田県および千葉県以南の日本両沿岸、インド西太平洋海域に広く分布する。生息水深は 20-80 m。

32. タテジマコブシ *Leucosia craniolaris* (Linnaeus, 1758)

(図 9-32)

甲は長さ 2 cm ほどで、わずかに縦長。甲は左右に強く湾曲し、滑らかで光沢がある。青磁のような地に淡褐色の縦縞が見られる。胸腔は深く、前縁には顆粒が並んでいる。

分布 — 能登半島以南および紀伊半島以南、オーストラリア、インドまで分布し、水深 10-100 m に生息する。

33. ヒシガタコブシ *Leucosia rhomboidalis* (De Haan, 1841)

(図 10-33)

甲は長さ 1.5 cm ほどで、やや縦長。甲面は滑らかで、光沢があり、左右に強く湾曲している。甲の前側縁と後側縁は直線的で、全体として菱形を呈する（和名の由来）。前鰓域近くに 1 対、胃域に 1 対の深紅色の斑点がある。

分布 — 日本海、紀伊半島から九州、東南アジアからインド近海まで。生息水深は 35-200 m。

34. ツバサコブシ *Merocryptus lambriformis*

A. Milne Edwards, 1873

(図 10-34)

甲幅 1.5 cm ほど。鰓域が甲の中心部から斜め後方、背面に翼状に突出しているため（和名、学名の由来）、奇妙な形という印象を受ける特徴的な種である。甲面は大小の顆粒で密に覆われ、胃域上の 2 個の突起、隆起した心域、窪んだ肝域など、全体として著しく粗面を呈する。はさみ脚は長節と掌部に数個の顕著な突起がある。雄では鰓域の翼状突起の先端が鋭く尖っているが、雌では丸みを帯びている。

分布 — 相模湾から九州、南太平洋、オーストラリア東部の砂質、貝殻質の浅海に生息する。日本海新記録。

35. テナガコブシ *Myra celeris* Galil, 2001

(図 10-35)

甲長 4.5 cm。甲は明らかに縦長で、左右に強く湾曲している。甲面は細かい顆粒で覆われているが、全体として滑らか。甲の後縁に 3 歯あるが、中央歯は突起状で、後方に突出している。十分に成長した雄でははさみ脚が著しく長く、甲長の 3.5 倍に達する。

分布 — 秋田県以南の日本海側、東京湾以南の太平洋側、南シナ海までの東アジア海域に分布し、水深 10-180 m に生息する。

36. マメコブシ *Philyra pisum* De Haan, 1841

(図 10-36)

甲長、甲幅とも 2 cm ほどで、全体として半球形。胃域、心域、腸域、鰓域が区分され、小顆粒が集まっている。肝域がやや角ばって甲の前側縁から張り出して見える。はさみ脚は比較的長大であるが、歩脚は短い。

分布 — 岩手県以南九州、韓国、中国北部に分布し、内湾の砂泥底潮間帯に生息する。

37. ヒラテコブシ *Philyra platycheira* De Haan, 1841

(図 10-37)

甲はわずかに縦長で、甲長約 2 cm。甲面は滑らかで光沢がある。鰓域と心域の境は明瞭。はさみ脚は長大。長節は円筒形であるが、掌部と指部は扁平。

分布 — 山形県および相模湾以南、インド西太平洋海域に広く分布する。生息水深は 35-150 m。



25



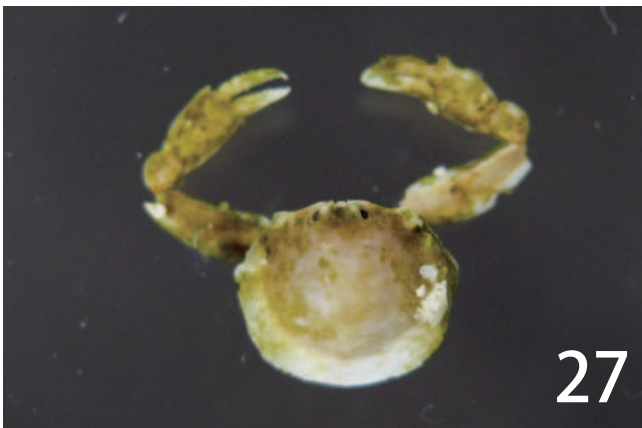
29



26



30



27



31

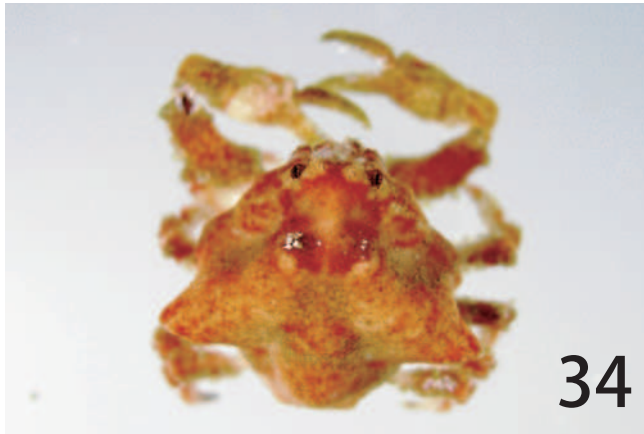


28



32

図9 (コブシガニ科). 25: ヒメトゲコブシ *Arcania globata* Stimpson, 1858. 26: ジュウイチトゲコブシ *Arcania undecimspinosa* De Haan, 1841. 27: ウスヘリコブシ *Cryptocnemus obolus* Ortmann, 1892. 28: テナガエバリア *Ebalia longimana* Ortmann, 1892. 29: ヤマトエバリア *Ebalia tuberculosa* (A. Milne Edwards, 1873). 30: ヨツメコブシ *Euclosia unidentata* (De Haan, 1841). 31: ツノナガコブシ *Leucosia anatum* (Herbst, 1783). 32: タテジマコブシ *Leucosia craniolaris* (Linnaeus, 1758).



38. ヒラコブシ *Philyra syndactyla* Ortmann, 1892
(図 10-38)

甲長 1 cm ほどで、やや縦長。甲の輪郭は円形に近いが、前方がやや狭い。甲面は平たく、甲域は不明瞭。肝域の張り出しは弱く、背面からは見られない。はさみ脚は長大で、長節は管状、掌部はやや平たい。はさみには小歯が並んでいる。

分布 — 日本固有種で、北海道南部から九州まで、太平洋岸、日本海沿岸の浅海に生息している。



図 10 (コブシガニ科の続き) . 33: ヒシガタコブシ *Leucosia rhomboidalis* (De Haan, 1841). 34: ツバサコブシ *Merocryptus lambriformis* A. Milne Edwards, 1873. 35: テナガコブシ *Myra celeris* Galil, 2001. 36: マメコブシ *Philyra pisum* De Haan, 1841. 37: ヒラテコブシ *Philyra platycheira* De Haan, 1841. 38: ヒラコブシ *Philyra syndactyla* Ortmann, 1892. 40: アカホシコブシ *Urnalana haematostica* (Adams & White, 1848)

39. チョウチンコブシ *Tokoyo eburnea* (Alcock, 1896)

甲長, 甲幅とも 1.5 cm ほどで, 甲は半球状に盛り上がる。甲面は細かい顆粒で密に覆われ, 甲域は不明瞭。肝域縁に 1 個, 鰓域縁に 3 個, 後縁に 3 個の疣状突起がある。はさみ脚は管状で, 甲長の 2 倍ほどの長さには達する。甲面の後部はやや黄白色であるが, 他は橙赤色。はさみ脚では縁がやや濃色の橙赤色を呈する。
分布 — 相模湾から九州までの水深 30-50 m 砂泥底に生息し, また, インド洋中部からも知られている。日本海では山口県沖から記録されている。鳥取県沿岸新記録。

40. アカホシコブシ *Urnalana haematostica*

(Adams & White, 1848)

(図 10-40)

甲幅 1 cm ほどの小型種。甲の輪郭はやや縦長の菱形で, 甲面は光沢があり, 赤色の小点が多数あって美しい。甲の側面, はさみ脚の基部近くに, 近縁種に見られるようなくぼみはない。はさみ脚の長節基部の上面と下面の小域にビロード状の毛が生えている。
分布 — 相模湾以南, 東南アジア沿岸からオーストラリア, インドまでの浅海に生息する。日本海での記録は鳥取県沖のみ。

XI. クモガニ科 INACHIDAE

41. アケウス *Achaeus japonicus* (De Haan, 1839)

(図 11-41)

甲は縦長の洋梨形で, 長さ約 1.5 cm。歩脚が管状で, 著しく長い。甲面は深い溝によって甲域に分けられ, 胃域, 心域, 鰓域が隆起している。額角は短く, 鈍頭の 2 歯に分けられている。雄のはさみ脚は太く, 長節, 腕節, 掌部が膨らんでいる。第 3, 第 4 脚の指節は強く曲がって鎌形を呈し, 内縁に小棘が列生している。生時, 歩脚にカイメンがついていることが多い。
分布 — 日本固有種で, 東京湾から九州西部, 北部。日本海では秋田県以南。生息水深 20-115 m。鳥取県沿岸新記録。

42. コビワアケウス *Achaeus lacertosus* Stimpson, 1857

甲長 6 mm, 甲幅 5.5 mm ほどの小型種で, 近縁種に比較して甲幅が広い。甲面は滑らかで, 肝域と鰓域が明瞭に隔てられている。額は中央に小さな切れ込みで 2 葉に分かれ, 先端にそれぞれ小さな棘がある。はさみ脚は円筒形で, 腕節の内縁に長剛毛が並んでいる。歩脚は細長い円筒形であるが, 後 2 脚の指節は強く湾曲して円形に曲がっている (和名の由来)。

分布 — 相模湾以南, オーストラリア, インド, アフリカ東岸の浅海泥底に生息する。日本海新記録。

43. アワツブアケウス *Achaeus tuberculatus* Miers, 1879

(図 11-43)

甲長約 1 cm で, 甲幅はやや狭い。縦長の洋梨形で, 鰓域がやや膨らむ。胃域と心域が隆起し, 中央に鈍頭の顆粒がある。肝域は突出して, 数個の顆粒がある。額は U 字形の切れ込みで 2 歯に分かれている。はさみ脚は各節が肥大している。歩脚は著しく細長く, 第 3, 第 4 脚の指節はわずかに湾曲するのみ。雄の腹部は第 3, 第 4 節, 末端節の幅が広い。

分布 — 本州北部から九州まで, 日本海側, 太平洋側の両岸の浅海に分布するほか, 韓国沿岸からも記録されている。鳥取県沿岸新記録。

44. ミットゲオーストンガニ *Cyrtomaia hispida*

(Borradaile, 1916)

(図 11-44)

甲幅 1.5 cm ほど。甲面は盛り上がり, やや横長の半球状。胃域に左右に 1 棘ずつ, 正中線上に 1 棘, 心域に左右に並ぶ 2 棘, 腸域後端に 1 棘, 鰓域に 1 棘がある。額は左右の鈍い突起と長い中央突起からなる。第 2 触角の柄節は扁平。はさみ脚は長大で, 前縁に棘が列生する。歩脚は管状で, 長く, 前 2 対は前縁に棘が生えている。

分布 — 紀伊半島沿岸から九州西北部, 琉球列島近海の浅海砂泥底に生息する。模式産地はニュージーランドで, インドネシアからも知られている。日本海新記録。

45. トゲオーストンガニ *Cyrtomaia murrayi* Miers, 1886

(図 11-45)

甲幅 2.5 cm ほど。近縁種に比較して, やや甲幅が広い。甲面は強く盛り上がり, 甲域に分けられている。各甲域には小棘が生えているが, 胃域の正中線上に 2 本, その後部に横に並ぶ数本, 心域の後部に 1 対, 鰓域に横に並ぶ数本の棘がある。額は V 字形の切れ込みで左右の短い棘になっている。眼窩外歯は小さいが, 続く肝域縁には 2 本の大きな棘があり, さらに小棘が続く。はさみ脚各節は小棘で縁取られている。歩脚は長く, 各節縁にそって棘が列生しているが, 前節と指節の後縁の棘は著しく長い。歩脚はヒラアシクモガニ属 *Platymaia* の種と違って管状であるが, 第 3 対目の前節と指節は平たく, 棘の代わりに毛が密生している。
分布 — 模式産地のインドネシア海域のほか, アフリカ東岸および日本 (土佐湾) の深海域から記録されて

いる。日本海新記録。

46. タカアシガニ *Macrocheira kaempferi* (Temminck, 1836)
(図 11-46)

甲長 30 cm ほどの大型種で、世界最大のカニとして有名。甲の輪郭は縦長の洋梨形で、甲は左右に強く湾曲する。甲面中央部の胃域、左右の鰓域が強く隆起している。甲面は無毛で、大小の瘤状の突起で覆われているが、小型個体では突起で覆われ、甲長 10 cm 程度までは長毛で覆われている。額棘は短く、左右に広く開いているが、小型個体では比較的長く、真直ぐに斜め前方に向いている。はさみ脚、歩脚とも管状である。十分に成長した雄でははさみ脚が長くなり、甲長が 40 cm 近い最大級の個体でははさみ脚を左右に広げると 4 m 近くになる。

分布 — 相模湾以南、九州西岸、東シナ海から記録されているが、日本海新記録。生息水深は一般に 200-400 m であるが、春先には水深 20 m くらいの浅海に上がって来る。

47. クモガニ *Oncinopus araneus* De Haan, 1839
(図 11-47)

甲長 1.5 cm ほどで、甲は後方に広い三角形。甲は柔らかい。甲面は平らで、胃域と心域が弱く盛り上がっている。額の突出は弱く、中央部の小さな切れ込みで 2 葉に分けられる。甲の後側縁は弱く板状になっている。はさみ脚は長く、雄では掌部が円筒形に膨らんでいるが、雌では細長い。前 2 対の歩脚は著しく長く、長節、腕節、前節は扁平で前後縁に長剛毛が櫛歯状に並んでいる。先端の指節は鎌形に湾曲している。後 2 対の脚は短く、指節と湾曲した前節が向き合い、はさみを形成する。

分布 — 相模湾以南、東南アジア各地からインド近海までの水深 30 m くらいまでの岩礁に生息する。日本海では鳥取県以南に分布。

48. マメツブガニ *Paratymolus pubescens* Miers, 1879
(図 11-48)

甲長 1 cm ほどの小型種で、甲幅もほぼ同じ。輪郭は丸みのある四角形で、甲の前側縁に 1 歯、後側縁に 1 歯がある。額は尖った 2 歯からなり、両側に触角の第 1、第 2 触角が見える。はさみ脚の腕節の内角に長い 1 棘、外角に小さな 1 棘がある。歩脚は 4 対とも同形で、指節は真直ぐで、前節と等長。

分布 — 日本固有種で、東京湾から九州、日本海に分布し、浅海の藻類の間に生息する。鳥取県沿岸新記録。

49. ヒラアシクモガニ *Platymaia alcocki* Rathbun, 1918
(図 11-49)

甲幅 3 cm ほど。甲はやや横長であるが、見た目にはほぼ丸い。甲面は全体として平たいが、胃域が弱く隆起している。額には 3 棘あり、中央棘がやや長い。はさみ脚は雄では長く、掌部がふくらんでいるが、歩脚より短い。歩脚は 4 対とも長く、平たい。とくに、後 3 対の前節と指節は扁平である。

分布 — 東京湾から九州西岸、新潟県沖、インド洋。生息水深は 180-750 m。鳥取県沿岸新記録。

50. ヨコヤハリセンボン *Pleistacantha japonica*
(Yokoya, 1933)
(図 12-50)

甲長 1.5 cm、甲幅 1 cm ほど。甲は縦長の洋梨形で、胃域と心域が背面に膨れている。肝域縁と鰓域縁は浅く隔てられている。甲面の甲域に小棘が散在する。額棘は細く短く（甲長の 1/4 程度）、V 字形に広く開いている。近縁のトゲハリセンボン *P. terribilis* Rathbun に似ているが、甲面の棘が少なく、また額棘が明らかに短い（トゲハリセンボンでは甲長の 1/2 程度）。

分布 — 日本固有種で、静岡県、和歌山県、九州西岸、五島列島沿岸などから知られている。日本海新記録。

51. ハリセンボン *Pleistacantha sanctijohannis* Miers, 1879
(図 12-51)

甲長 2 cm ほどで、甲幅はやや狭い。甲の輪郭は縦長の三角形で、甲面、はさみ脚、歩脚とも小棘で覆われている（和名の由来）。甲面では胃域や心域、鰓域に数本のやや大きな棘が左右相称に生えている。額棘は甲幅の半分ほどの長さがあり、細い。左右の額棘が接して斜め上方を向き、先端部分が左右に開いている。額棘には 1、2 本の小さな副棘が生えている。

分布 — 日本固有種で、相模湾から九州西部、日本海では石川県以南、水深 30-220 m に生息する。鳥取県沿岸新記録。

52. コアケウスモドキ *Prosporachaeus suluensis*
(Rathbun, 1916)
(図 12-52)

甲長約 5 mm の小型種。甲は縦長の洋梨形で、肝域の後方でくびれている。額は U 字形の切れ込み、短い 2 歯に分かれている。胃域と心域に鈍頭の 1 棘がある。はさみ脚は雌雄とも細い。歩脚は比較的短くて、太く、雄では前節の中央から末端にかけて太く、平たくなっている。雄の腹部は比較的幅広く、第 2、4、5 節がご



図 11 (クモガニ科) . 41: アケウス *Achaeus japonicus* (De Haan, 1839). 43: アツツバアケウス *Achaeus tuberculatus* Miers, 1879. 44: ミットゲオーストンガニ *Cyrtomaia hispida* (Borradaile, 1916). 45: トゲオーストンガニ *Cyrtomaia murrayi* Miers, 1886. 46: タカアシガニ *Macrocheira kaempferi* (Temminck, 1836). 47: クモガニ *Oncinopus araneus* De Haan, 1839. 48: マメツブガニ *Paratymolus pubescens* Miers, 1879. 49: ヒラアシクモガニ *Platymaia alcocki* Rathbun, 1918.



図 12 (クモガニ科の続き) . 50: ヨコヤハリセンボン *Pleistacantha japonica* (Yokoya, 1933). 51: ハリセンボン *Pleistacantha sanctijohannis* Miers, 1879 . 52: コアケウスモドキ *Prosporachaeus suluensis* (Rathbun, 1916).

く短い。雌雄とも第1腹節に心域と同様な棘がある。雄の第1腹肢の末端部に大きな付属物がある。外形はアケウス属の種に似ているが、雄の第1腹肢の独特の形態により、別属とされる。

分布 — 原産地はフィリピン、スールー諸島で、日本

では相模湾から東シナ海にかけて浅海の砂泥底に少なくない。日本海新記録。

XII. イッカククモガニ科 INACHOIDIDAE

53. イッカククモガニ *Pyromaia tuberculata*

(Lockington, 1877)

(図 13-53)

甲長 2.5 cm ほどの三角形ないし洋梨形で、歩脚が著しく長い。甲面は顆粒で覆われ、胃域、心域、鰓域は深い溝で明瞭に区分され、各甲域には鈍突起がある。額部は幅広い三角形で、先端が1本の突起に終わる(和名の由来)。はさみ脚は各節とも顆粒で覆われ、雄では掌部が大きく膨らんでいる。歩脚は第1対目が最長。分布 — 原産地はアメリカ、カリフォルニア州沿岸からパナマ湾に至る海域で、日本では1970年に昭和天皇が城ヶ島沖で採集されたのが最初とされる。その後、港湾を中心に各地に広がっている。浅海の軟泥底に生息し、時にヘドロで黒く汚れた個体も採集される。貨物船のバラスト水で稚ガニが運ばれたことはほぼ確実で、韓国やニュージーランドなどからの記録もある。日本海では山口県から記録されている。鳥取県沿岸新記録。

XIII. ケセンガニ科 OREGONIIDAE

54. オオズワイガニ *Chionoecetes bairdi* Rathbun, 1924

(図 14-54)

甲幅 15 cm 以上になる大型種。ズワイガニに似ているが、甲の輪郭がやや横長で(ズワイガニでは正三角形)、甲面の盛り上がりは弱い(甲の後半部でそのような印象を強く受ける)。バルダイという流通名で冷凍品が多量に輸入されている。

分布 — アリューシャン列島からアラスカ沿岸に分布するが、近年は北海道南部でも漁獲されている。自然分布かどうか疑われたこともあるが、ズワイガニ属 *Chionoecetes* の種は寒海系で、ケガニなどと同様に、日本海から北太平洋北部に広く分布しているのは不自然ではない。日本海では北海道沿岸から知られている。兵庫県産。

55. ベニズワイガニ *Chionoecetes japonicus* Rathbun, 1932

(図 14-55)

甲幅 13 cm ほどで、よく知られた食用種。朱赤色の美しい種で、甲の輪郭、背面の盛り上がりなどもズワイガニとは明らかに異なる。背面は強く盛り上がり、左右の鰓域が中央の心域に接近している印象を受ける。甲の前側縁に沿って並ぶ顆粒列の最後の顆粒が鋭い突起となっている。



図 13 (イッカクモガニ科) . 53: イッカクモガニ *Pyromaia tuberculata* (Lockington, 1877).

分布 — 日本海から北海道沿岸に広く分布するほか、房総半島以北の太平洋側にも生息している。生息水深は 450-2300 m である。群れをなして回遊しており、水深 450 m ほどの深さでズワイガニと遭遇することがあるらしく、自然雑種がしばしば漁獲される。雑種個体では、甲の盛り上がりの強さ、歩脚基部上甲縁の小顆粒列が両種の間中的である。

56. ズワイガニ *Chionoecetes opilio* (O. Fabricius, 1788)

(図 14-56)

雄の甲幅 12 cm, 雌の甲幅 6 cm ほど。“日本海の冬の味覚”として知られる水産業上の重要種。標準和名はズワイガニであるが、その語源は明らかではない。むしろマツバガニやエチゼンガニの名の方が通りがよく、また、脱皮との関連や雌の抱卵状況などにより呼び分けることも多い。甲は丸みのある三角形で、疣状の顆粒で覆われている。甲の前側縁に沿って鰓域後部を横切る顆粒列がある。雌は性的に成熟すると以後は脱皮することなく抱卵するため、雄の半分ほどの大きさである。歩脚はやや平たく、長い。歩脚基部上に位置する甲縁の小顆粒列は、全長にわたって 2 列。

分布 — 日本海全域のほか、房総半島以北の太平洋岸の水深 50-450 m に生息し、北太平洋北部（オホーツク海、ベーリング海、カムチャッカ半島沿岸、アラスカ）、北大西洋北部（カナダ東部、グリーンランド）に広く分布している。日本産の個体群は歩脚が長いとされ、*Ch. opilio elongatus* Rathbun, 1924 の学名が与えられている。亜種として区別するほどの差違はないとする意見もあるが（酒井 1976）、直接比較すると亜種あるいは別種とすることが可能ではないかと考えられる。

57. ズワイガニ×ベニズワイガニ Hybrid of *Chionoecetes opilio* and *C. japonicus*

(図 14-57)

ズワイガニとベニズワイガニの雑種で、両種の形態的特徴を合わせ持つ。色彩も中間的である。甲の高さはややベニズワイガニに近いが、鰓域の顆粒列、特に鰓域縁の状態はズワイガニのそれに近い。甲の前側縁下部の稜はベニズワイガニでは後縁から前方へ第 5 脚の付け根まで 2 列であるが、それより前では 1 列になっているのに対して、ズワイガニでは稜ははさみ脚の付け根近くまで 2 列である。雑種では、稜が 1 列になる場所はまさに両種の間中点である。

分布 — 正確な生息記録は少ないが、自然雑種の存在はよく知られている。ズワイガニとベニズワイガニは深浅回遊を行っているが、水深 450 m くらいで両種が出会うことがあるようである。

58. ヒキガニ *Hyas alutaceus* Brandt, 1851

(図 14-58)

甲長 8 cm, 甲幅 6 cm ほどの中型種。甲の輪郭は洋梨形であるが、甲面は全体として平たい印象を受ける。甲域はよく分割され、平たい疣状顆粒がある。額部は幅広くて短く、左右の棘が接している。眼窩上縁と眼窩外歯は接するか、むしろ外歯が上縁に重なっている。眼窩外歯は肝域と癒合して板状になっている。はさみ脚は太く、歩脚よりも長い。歩脚も太く、各節は管状。甲域上の顆粒と板状の肝域縁がヒキガエルの印象を与える（和名の由来）。

分布 — 日本海に広く分布するほか、東北地方から北海道にかけての太平洋側に分布し、さらにオホーツク海からベーリング海、アリューシャン列島、アラスカ沿岸の浅海砂泥底に生息する。鳥取県沿岸新記録。

59. ケセンガニ *Oregonia gracilis* Dana, 1851

(図 14-59)

甲長 4 cm, 甲幅 3 cm 程度。甲の輪郭は丸みのある三角形で、甲域には大小の顆粒がある。大きな顆粒には数本の鉤毛が生えている。額は長く、左右の棘が接して先端部だけがわずかに開いている。眼窩外歯は鋭い棘で、斜め前方を向く。オスのはさみ脚は強力で、顆粒と鉤毛で覆われている。歩脚は比較的細長く、直毛と鉤毛で縁取られている。武田（1995）によれば、ムツケセンガニ *O. mutsuensis* Yokoya, 1933 は本種の幼形である。

分布 — 日本海、房総半島以北の太平洋岸、プリストル湾からカリフォルニア沿岸までの水深 10-440 m に

生息する。鳥取県沿岸新記録。

XIV. モガニ科 EPIALTIIDAE

60. コノハガニ *Huenia heraldica* (De Haan, 1837)

(図 15-60)

雌雄で形態が異なること(雌雄2型)で有名なカニ。甲長3 cm ほど。雄では甲の側縁に突起がなく、全体

として縦長の二等辺三角形であるが、雌では肝域と鰓域に大きな葉状突起がある。この突起の形態には個体および成長変異があり、前後がほとんど接していることさえある。額は背面から見ると背腹に平たい幅広い三角形で、先端が尖っているが、先端近くは左右に平たく、横からみると上下に幅が広い。眼上棘は鋭く尖っている。はさみ脚は雄では強大である。各種の海藻の

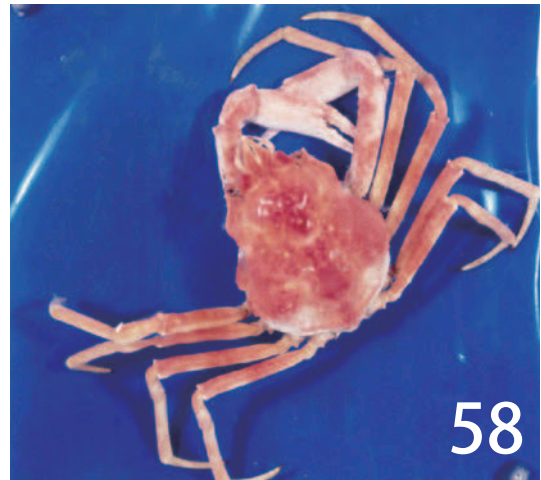


図 14 (ケセンガニ科). 54: オオズワイガニ *Chionoecetes bairdi* Rathbun, 1924. 55: ベニズワイガニ *Chionoecetes japonicus* Rathbun, 1932. 56: ズワイガニ *Chionoecetes opilio* (O. Fabricius, 1788). 57: ズワイガニ×ベニズワイガニ Hybrid of *Chionoecetes opilio* and *C. japonicus*. 58: ヒキガニ *Hyas alutaceus* Brandt, 1851. 59: ケセンガニ *Oregonia gracilis* Dana, 1851.